



令和5年度

小野小だより



9月号

9月1日



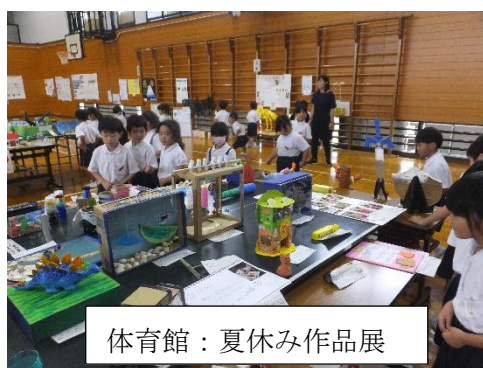
「充実した 2学期をめざして」

残暑が厳しい毎日が続く中、学校では、子ども達の明るい声が校舎内に響き、みんなで2学期を元気にスタートしています。

夏休みの間に、各教室に2台ずつ、サーキュレーターを取り付けました。空調が教室全体に行き渡るようにするためのものです。換気をしながら、快適な環境で学習できるように、整備してもらいました。

2学期は、学年行事や全校行事がたくさんあります。普段の学習と両立しながら、子ども達の成長が見れる充実した2学期になるように、努めてまいりたいと思います。

今後も、コロナ感染症は、インフルエンザと混在しながら、感染の波が続きそうです。手洗いやうがいをする、睡眠やバランスの良い食事をとって抵抗力をつける等、感染症への基本的な対策をおこなっていく必要があります。子ども達が元気に過ごせるように、引き続きご家庭でのご協力をお願い申し上げます。



体育館：夏休み作品展

思いやり算 「 + - × ÷ 」

～ 2学期始業式の話 ～



◆思いやり たし算＝「助け合う」

一人でできないことも、だれかと助け合うとできるよ。2学期もみんなで助け合えるすばらしいクラス、学年、学校にしよう。



◆思いやり ひき算＝「引き受ける」

自分が好きな仕事を引き受けられる人はたくさんいるね。でも、人が嫌がるようなことや、めんどろなことを自分から進んで引き受けられる人は、素敵な心をもっている人だね。そんな人が増えるといいな。

◆思いやり かけ算＝「声をかけ合う」

「だいじょうぶ?」「元気出して」など、人から声をかけられると、勇気をもらったり、励まされたりするね。声をかけてくれた人のやさしさは忘れないし、お互いの仲も深まっていくよ。



◆思いやり わり算＝「分け合う」(分かち合う)

物を分け合うことではありません。心を分け合うのです。難しい言葉で分かち合うと言います。誰かに話すことで、嬉しさや楽しさは何倍にもなり、悲しさやつらさは何分の一にもなります。人と話をするすることで、気持ちを分かち合いましょう。



2学期も思いやりのある
やさしい子がいっぱいの小野小に！

「リフレーミング」ものの見方を変える

考え方
しだい



水が半分もある

水が半分しかない

物事の捉え方、見方を変えて、前向きに考えることを「リフレーミング」と言います。夏休み中の職員研修でも、先生方とリフレーミングについて学びました。

ご家庭でもお子様の言動で気になることがあることでしょう。考え方次第で、子育ても少しは楽になると思われます。

例えば、左のようなコップの水を見たとしましょう。「あなたは どう思われますか?」「水が半分しかない」というのはネガティブな見方。「水が半分もある」というのはポジティブな見方。人によって、捉え方が違います。「まだ水が半分もあってうれしい」と考える方が、幸福度が高まります。

人への見方も、こんなポジティブな捉え方ができると、【いいとこ探し】ができ、子どもも大人も良い顔をして過ごせるのではないのでしょうか。

ポジティブな見方に変換してみましよう！

「あきっぱい」⇒「好奇心旺盛」

「がんこ」⇒「意志が強い」

「こだわりが強い」⇒「物を感じ取る能力が高い」

「のんき」⇒「細かいことにこだわらない」

「でしゃばり」⇒「世話好き」

「試験が不合格になった」



×「自分には才能がない」

○「この結果から学ぶことは大きいはずだ。」

お知らせ【第2回PTAエコリサイクル 10月21日(土)】

◆本年度より2回目以降、チラシの案内配布は致しません。10月に向け、よろしくお願ひします。